

事業所名	あしたも笑顔 金町		公表日 令和8年3月			
	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点	
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	12	1	基準以上のスペースを確保している。	
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	10	2	児童発達支援管理責任者、児童指導員を加配し、児童の状況に応じて安全に配慮しながら適切に職員配置を行っている。	十分な支援を行うため、必要に応じて他事業所と連携しながら職員体制の確保に努める。
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	10	3	フロアに段差はあるが、床の色を変えることで判断できるようにしている。また児童の状況に応じ手つなぎ等の介助を行い安全に配慮している。必要に応じてパーテーションや一人用テントを活用し落ち着いて過ごせる空間も配慮している。	
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	11	2	支援後又は職員が出動して直ぐに清掃を行っている。また換気を行いつつ空気清浄機も使用している。必要に応じて配置変えも随時実施している。	安全に過ごせる環境を維持するため、定期的に壁や床の補修など環境整備を行っていく。
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	12	1	パーテーションで区切ったり、一人用のテントを活用できる環境にしている。	必要に応じて相談室を活用する。
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCA サイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。	11	2	ミーティングで振り返りを行ない、全職員のグループLineで共有している。	日曜日のみ勤務する職員にも業務内容や細かな対応について十分周知し職員間の情報共有と共通理解を図っていく。
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	11	1	意向を職員間で周知し、改善につなげている。	
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	12	1	支援前のミーティングや記録記入時に意見等を聞き、改善につなげている。	意見しやすい環境と雰囲気をも更につなげていく。
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	8	5	現在行っていない。	
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	12	1	年に3回実施している。参加できなかった職員への伝達研修もしている。	外部研修への参加回数を増やしていきたい。
	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	13		年に一回アセスメントシートを配布し確認している。	
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	13		保護者との面談やスタッフの意見をとりいれて作成している。	
	13	放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	12	1	事前に職員間で話し合い予定を立てている。	
	14	放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	12	1	職員間で確認しながら支援を行っている。	
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	11	1	標準化されたアセスメントツールを使用している。	
	16	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	11	1	アセスメントシートを基に目標を設定し児童の状況に応じた具体的な支援内容を個別支援計画に反映している。	児童の成長や状況の変化に応じて、支援内容を随時見直していく。
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	12	1	常勤職員が中心に、職員間で意見交換を行いながらチームで活動プログラムを作成している。	パート職員の意見も積極的に取り入れながら、活動プログラムの内容を充実させていく。
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	13		季節ごとにイベントを開催するなど工夫をしている。個別の支援に関しては利用するたび同じ内容にならないよう配慮している。	

適切な支援の提供	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	13		適切に作成している。	各児童にあわせた個別のプログラムと集団活動を取り入れていく。
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	13		事前ミーティングを行ない、それぞれの役割について確認している。 休日や長期休暇は全職員のグループLINEや書面などで確認できるようにしている。	
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	11	2	ミーティングで振り返りを行ない、全職員のグループLINEで共有している。	
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	13		個別支援計画に焦点を当てて記録している。	
	23	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	13		記録支援に個別支援の項目を設置し、面談や引き継ぎの際にモニタリングを行なっている。	
	24	放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせ支援を行っているか。	12	1	町会に加入し防災訓練など地域の交流に参加した。	
	25	こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	12		行なっている。	
関係機関や保護者との連携	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	11	2	管理者・児童発達支援管理責任者が出席している。	
	27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	10	2	必要に応じて連携している。	
	28	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	13		学校からのお手紙や、保護者からも情報共有ができています。	
	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	7	4		今後は積極的に情報共有ができるよう検討していきたい。
	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	10	1	必要に応じて提供している。	
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。	7	4	必要に応じて連携している。	
	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。	5	7	地域の児童館イベント（おたのしみ工作）に参加した。	地域とのつながりを大切にしながら、機会があれば交流の場についても検討していく。
	33	（自立支援）協議会等へ積極的に参加しているか。	6	5		今後は積極的に参加できるよう検討する。
	34	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達状況や課題について共通理解を持っているか。	12	1	活動後の送迎時に、保護者との引き継ぎで共通理解に努めている。	保護者となかなか会えない場合には電話やLINEでの情報理解を深めていく。
	35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	7	4	保護者から相談があった場合、必要に応じて助言を行なっている	
保護者への説明等	36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	12	1	契約時に契約書、重要事項説明書を用いて説明している。	
	37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	12	1	アセスメントシートを基に職員間で話し合、児童や保護者に確認をとりながら作成している。	
	38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	12	1	行っている。	
	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	13		随時相談を受け付け、年に一回個別面談を行なっている。	面談は極力対面で行い、十分な時間をとっていきたい。
	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機軸を設ける等の支援をしているか。	1	10	開催していない。	今後はニーズの聞き取りを行ない、必要があれば開催を検討していきたい。

	41	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	13		苦情受付先を契約時に説明し、事業所内にも貼りだしている。	
	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか。	13		毎月写真付きの会報を発行している。	
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	13		個人情報の提供について、契約時に保護者に同意を得て取り扱いに注意している	
	44	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	13		個々に応じて配慮している。	
	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	5	7	現在は行なえていない	今後は地域との関りを深められるよう検討していく
非常時等の対応	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	13		各マニュアルは事業所内に設置し、ホームページでも提示している	家族への周知をしていく
	47	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	13		BCPは年に1度見直しを行い、訓練は毎月テーマを決めて実施している	
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等の子どもの状況を確認しているか。	13		保護者への確認を毎年行っている	
	49	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	10	3	保護者への確認を毎年行っている	現在は該当者いないが必要に応じて医師の指示に従う。
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	12	1	適切な支援が出来るよう年に数回職員の勉強会や避難訓練を毎月行っている。	
	51	子どもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	13			
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	12	1	LINEワークスで共有し、再発防止策も載せている。	
	53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	13		最低年1回は研修の機会を設け、適切な対応ができるようにしている。	
54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	11	1	身体拘束適正委員会は最低年1回実施しているが、身体拘束を行なう対象利用者がいない。		